

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 果樹カメムシ類の発生状況と防除の徹底について

本年は果樹カメムシ類の越冬量が多く、令和2年3月4日付け病害虫対策資料第15号において注意喚起を凶ってきたところです。このような中、現在、カメムシ類の誘殺虫数が急増しており、また、一部地域の栽培園では、カメムシ類の飛来及び果実被害が確認されています。

については、今後の園地への飛来に注意し、下記事項を参考に防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



チャバネアオカメムシ

### 記

#### 1. 発生概況

- 1) 小城市に設置している予察灯で、5月上旬から誘殺虫数が急増している。また、基山町及び太良町に設置しているフェロモントラップでも増加している。(表1)
- 2) 5月上旬頃から、県内一部のハウスミカン、スモモ等の現地栽培園でカメムシ類の飛来が確認されている。また、スモモでは果実での被害が確認されている(写真1)。
- 3) 福岡管区气象台が5月14日に発表した九州北部地方の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、今後、カメムシ類の活動が活発になり、園地への飛来が増加する可能性が高い。

表1 予察灯及びフェロモントラップにおける果樹カメムシの誘殺状況

トラップの種類	地区	誘殺虫数(頭)				
		本年4月	本年5月		平年5月	
		25~30日	1~5日	6~10日	11~14日	1~15日
予察灯	小城市小城市	21	498	342	420	74.1
フェロモン	基山町園部	0	24	24	-	13.6
	小城市小城市	1	4	8	8	28.3
	唐津市鎮西町	0	0	0	0	7.7
	太良町伊福	39	193	193	-	-

誘殺されているのは、主にチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシである。  
誘殺虫数は、調査期間の日別平均値から表中の期間ごとの誘殺虫数を再算出した値である。

#### 2. 防除対策

- 1) 飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努める。

- 2) カメムシ類は、園内に侵入後、集合フェロモンで同種を誘引し、被害を及ぼすので、果樹園への飛来を認めたら、合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤で直ちに防除を行う。防除薬剤は、佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびきを参照する。
- 3) 合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤の残効期間は10～15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は、30～50mm程度の降雨で防除効果が低下するため、散布後に同雨量以上の降雨があった場合は、再散布を行う。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ以下）を設置する。
- 5) 防風樹または果樹園周辺にヒノキ・スギが植栽されている場合は、増殖源となる球果が結実しないよう刈り込む。
- 6) 今後の発生状況については、当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にす。  
（農業技術防除センターHP：[http://www.pref.saga.lg.jp/ki\\_ji00321899/index.html](http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html)）



写真1 カメムシ類によるスモモの幼果の被害（令和2年5月11日撮影）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 〒840 2205 佐賀市川副町南里1088 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45-5085
---